

1 子ども一人一人の学力の向上

重点目標と指標	記号	目標の達成状況・取組状況・結果分析	改善策（次年度への方途）	学校関係者評価委員会から	評価
(1) どの子ども「分かった」「できた」と実感できる授業を工夫します	A	<p>○算数の効果的な指導方法が明確になってきた。</p> <p>○事前の学習定着度テストや独自の調査で積極的に実態を把握し、個に応じた指導ができるようになりつつある。</p> <p>○漢字検定や算数検定の実施が定着した。また、それを目標に学習させたことで、児童個々の定着確認をすることができた。</p> <p>○話し方、聞き方キャンペーンによって、よりよい話し方や聞き方を意識できるようになってきた。</p> <p>○同じ事であっても、ペアを替えて何度も話す活動を位置付けることで、子どもは満足感を味わい、話すことを楽しむことができた。</p> <p>●算数の授業では、大切にしたい数学的な考え方に気付く場面での話し合い活動が充実するように研究する必要がある。</p>	<p>・漢字検定や算数検定は、次年度も継続して行う。検定のための練習時間や個別の学習指導の時間を月に1回程度は昼休みに確保できるように行事調整を図る。</p> <p>・算数の授業での話し合いが深められるように、児童に話し方や聞き方の指導を継続して行うと共に、教師の問い返しのポイントがより具体的に明らかになるように研究を進める。</p> <p>・教科学習 Web システムを活用し、算数学習の定着状況を見届ける。</p>	<p>・自分の考えをちゃんと人に伝える力は、大人になってもすごく大切なので、どんどん伸ばしていけると良い。</p> <p>・何となく分かったのか、しっかり分かったのか、同じ「分かった」でも中身が違う。子どもの質問を大切にしたい。</p>	A
(2) 少人数指導や個別の学習指導を継続します	A	<p>○少人数指導の授業研究会から、コースの児童の実態に合わせた教材や教具の工夫など、指導の仕方について理解を深めることができた。</p> <p>○じっくりコースの人数を少人数（4～8人）に絞ることで、きめ細かく指導することができた。その結果、5年生では、どんどんコースの子ども達の図形の単元テストは、知識・理解・技能の学級平均正答率が87%、じっくりコースの子ども達は83%であった。学級の平均正答率に近い結果を得ることができた。6年生でも、分数のかけ算・わり算の単元では、知識理解・技能をみるテストで80%以上の正答率を得ることができた。</p> <p>○夏休みだけでなく、日頃から時間を見つけて、宿題ができていない児童や学習理解の遅い児童に対して、粘り強く指導することができた。</p> <p>●昼休みなどに指導ができた面もあるが、休み時間が多忙になっているため、実施が難しい面もある。</p>	<p>・5年生と6年生の少人数指導を次年度も継続する。どんどんコースでは、話し合いの中から大切な考え方に気付いて表現したり活用したりできるように指導を工夫していく。じっくりコースでは、大切な考え方をきちんと理解して活用できるように指導を工夫していく。</p> <p>・昼休みに検定の練習や個別指導の時間が確保できるように、行事調整を図る。</p>	<p>・少人数指導の「どんどんコース」と「じっくりコース」の正答率がほぼ近いということはすごい。少人数指導の成果が出ていると思う。</p>	A
(3) 学校での読書指導を充実させます	A	<p>○図書館祭りや図書委員・先生・母親委員の読み聞かせ、ブックトーク、図書館の本の展示などにより、児童が本を読みたくなる図書館になってきている。</p> <p>○学級では、学習に関わる本や読書交流会で紹介する本などをロッカーの上に並べ、すすんで読書できる環境づくりに取り組むことができた。</p> <p>○図書館のソフトを利用して月ごとに個々の読書の状況をデータ化し、それを生かした指導が行われた。読書冊数や読書傾向で気になる児童には、声をかけることができた。</p> <p>○読書冊数は、12月の段階で1人あたりの平均冊数で前年比135%と増加し、読書の幅も広がっている。</p> <p>●読書の実態にはばらつきがあり、指導の必要な児童もいる。図書館のデータを各担任が簡単に引き出すなどできるようにして、読書の状況を常に見守って指導していけるとよい。</p>	<p>・今年度読書指導や利用指導で実践してきたことを次年度も継続する。</p> <p>・担任が図書館のデータを引き出すことができるよう、図書館ソフト活用の研修会を実施する。</p> <p>・次年度も図書館教育賞のコンクールにエントリーする。</p>	<p>・調査結果ではCからBに動いている傾向だと思ふ。与えられた時間のみではなく、家庭でも読書をする習慣が身に付くとよいと思ふ。</p> <p>・本＝勉強ではなく、本＝楽しみ、おもしろいの図式に変わるといいと思ふ。</p>	A

重点目標と指標	記号	目標の達成状況・取組状況・結果分析	改善策（次年度への方途）	学校関係者評価委員会から	評価
(4) 家庭学習の充実と習慣化を図ります	B	<p>○家庭学習の定着を図るため、毎日宿題を出し、チェックを行った。忘れた児童は、学校でやらせるようにして、宿題は必ずやるものという意識をもたせることができた。</p> <p>○情報モラルについて、PTA と連携したり学級で指導したりして、ゲームをやりすぎないことやネットの危険性などについて理解させることができた。</p> <p>○家庭学習アンケートや家庭教育週間を実施すること自体が、各家庭への啓発に有効であった。</p> <p>●家庭教育週間中の土日の取組が思わしくない。土日の家庭学習の指導について考えていく必要がある。</p> <p>●家庭によって、家庭学習の意識の差がある。今後も家庭学習定着を図るために、保護者への啓発をしていく必要がある。</p>	<p>・「家庭学習のすすめ」を活用した家庭への啓発や家庭学習アンケートを次年度も継続して実施する。</p> <p>・土曜日や日曜日の家庭学習については、金曜日の家庭学習も含めて、3日間で目安となる時間を1日分実施することを最低限の目標とする。その上で、土曜日や日曜日にしかできない学習（見学や体験、家族での読書など）の実施を啓発していく。</p> <p>・情報モラル指導を家庭教育週間（年3回）にあわせて実施し、その様子を通信などで家庭に知らせ、啓発していく。</p>	<p>・家庭学習は、親と子、家庭と子どもの関係になるので、学校としては介入が難しいと思う。</p> <p>・学校と保護者と地域が連携して、子どもたちを正しい方向へ導いていきたい。</p>	B
<p>【学校関係者評価を受けての学校の改善策】</p> <p>・授業の話し合いで考えが深められるように、児童の疑問や質問をうまく生かした教師の問い返しについてさらに研究を深める。</p> <p>・家庭事情に応じて家庭学習への援助や情報モラルにかかわる見守りをしていただく。各家庭でできることを考えていただき、それを実践し見届けていただくように改善を図る。</p>					

## 2 あたたかい人間関係を築く指導や援助の充実と社会性が高まる教育の推進

重点目標と指標	記号	目標の達成状況・取組状況・結果分析	改善策（次年度への方途）	学校関係者評価委員会から	評価
(1) 元気で明るいあいさつを育てます	A	<p>○あいさつ週間だけでなく校長先生のお話や全校朝会であいさつについて話したことで、あいさつへの意識が高まった。</p> <p>○子どもたちとともに地域に出た際などに、あいさつをすることについて指導することができた。</p> <p>○地域の方からは、小学生がよくあいさつをしてくれるという言葉をいただいた。</p> <p>●今後も、家庭や地域でもしっかりあいさつできるように指導を継続していく必要がある。</p>	<p>・花の木執行部を中心とした児童によるあいさつ運動を継続する。</p> <p>・分団班長との連絡ノートを使った指導の場で、あいさつについてチェックして指導すると共に、あいさつのよくできる分団を積極的に紹介し価値づける。</p>	<p>・先生方がいつも意識しているので、児童も常に意識できると思う。</p> <p>・あいさつができる子が増えてきているように思う。</p>	A
(2) 個々の思いを把握し、あたたかい人間関係をつくるよう努めます	A	<p>○毎月心の悩みアンケートを行って、相談したいことがある児童とは、面談を行い、具体的に話を聞いて指導してきた。また、トラブルがあったときには、すぐに対応することができた。</p> <p>○道徳の研究授業をよい機会として、道徳の時間の充実を図ることができた。また、道徳コーナーの掲示物によって、道徳で考えたことを児童に思い出させるようにしている。</p> <p>○人間関係のトラブルなどについては、情報共有もあり、全校で動き出すことができた。</p> <p>○いじめの未解決事案は、0の状況である。</p> <p>●いじめや人間関係のトラブルの芽はたくさんある。今後も早期発見、早期対応に心掛けていく必要がある。</p>	<p>・心の悩みアンケートの結果を素早く校長、教頭、生徒指導主事が把握できるようにする。また、今後もアンケートの結果に基づいた丁寧な担任による教育相談を継続する。</p> <p>・ケース会議（個々の子どもの状況に対応した会議）を定期的に開催し、子どもの様子を随時把握して、組織的に対応していけるようにする。</p>	<p>・小さな心の変化も見逃さないよう、アンテナを高くされているので安心している。早期発見・早期対応を今後もお願いしたい。</p> <p>・全国のニュースで出るいじめ事案は、ほんの一握り。釜戸では陰湿なものはないと思いたい。子どもからすると小さいいじめも心を傷つけている。身近な大人に話せる環境づくりが大切だと思う。</p>	B

重点目標と指標	記号	目標の達成状況・取組状況・結果分析	改善策（次年度への方途）	学校関係者評価委員会から	評価
(3) 登下校時の見守りや分団指導をさらに強化します	B	○毎日、校長や教頭が登校指導を実施し、交通安全や人間関係のトラブル防止に努めた。 ○登校指導で得た情報がすぐに職員に伝わり、対応することができた。 ○毎週、班長が担当の先生とノートを通して情報を伝えていた。それをもとに担当からの指導も行われた。 ○月2回の下校指導を実施することで、児童の下校時のトラブルをある程度防止することができた。 ○必要に応じて分団を集めて指導したことで、危険な行為をやめさせたり大きなトラブルにならずにすんだ。 ●低学年下校の様子について、保護者の情報から指導することがあった。早く実態を把握する努力をしていきたい。	・連絡ノートを使った分団の様子の把握について、分団班長だけでなく副班長や他の児童からも情報を得るようにする。 ・低学年の下校時のトラブルについては、担任がより注意深く下校の様子を把握するように努力するとともに、月に1回程度、支部長さんへのアンケート調査などを実施して、より早く情報を得られるようにしていく。	・登下校は、高学年に注意するよう指導したい。先生の見守りには限度がある。 ・身近な地域内でもつながりが弱くなってきている現状で、分団の問題解決は大変だと思っている。地道に取り組んでいくしかない。	A
(4) 学校からの情報発信と保護者からの情報収集に努めます	A	○通信や連絡帳、直接電話での連絡やメルマガなど、適宜必要な媒体で連絡を取ることができた。 ○安心安全ほほえみだよりに保護者からの情報提供の欄を設けた。1件の情報提供（学校への依頼）があり、すぐに対応することができた。 ○ハッピーメッセージを地域や保護者から寄せていただくことができた。それを集会で紹介することで、地域の方にあたたかく見守られているという意識を児童にもたせることができた。 ●今後も保護者や地域の方から情報を得られるよう努力していきたい。また、学校のホームページを見ていただけるよう宣伝もしたい。	・「安全安心ほほえみだより」や学級通信、連絡帳での情報提供や啓発を継続する。 ・保護者や地域の方から参観日や運動会などの行事後にもハッピーメッセージを寄せていただけるように努力する。	・ハッピーメッセージの取組をぜひ続けてほしい。 ・丁寧に読みやすい分かりやすい情報発信をしていると思う。	A
【学校関係者評価を受けての学校の改善策】 ・今後も心の悩みアンケートを実施するとともに、アンテナを高くしていじめや人間関係トラブルの芽がないかよく見守っていく。また、日常の教育相談を大切にし、できるだけ子どもに声をかける。さらに、連絡帳やつばさ（児童の日記）のチェックをしっかりと行う。					

### 3 家庭や地域と連携し、地域とともに歩む学校

重点目標と指標	記号	目標の達成状況・取組状況・結果分析	改善策（次年度への方途）	学校関係者評価委員会から	評価
(1) 「社会に学ぶ」「福祉に学ぶ」「人に学ぶ」教育活動を行います	A	○今年度も保護者や祖父母の方などに、運動会前の草取りやスケート教室のボランティアをお願いすることができた。 ○全ての学年が地域の自然や歴史などとふれあえる学習を展開し、地域の良さについて学習できた。（生活科での自然ふれあい館活用、3年町探検、4年陶生苑訪問（予定）、5年カワゲラウォッチング、6年ふるさと学習） ○PTA教育講演会には、120名ほどの保護者や地域の方が参加された。 ○文化祭では5・6年生のソーランと4・5年の合唱を、ひなたぼっこの集いでは4年生の合唱を披露し、地域で発表することができた。 ●今後も地域の方から学ぶ教育を充実させていきたい。	・地域の人材リストを再整備し、さらに活用しやすいようにする。 ・5年生の総合的な学習（環境及び防災にかかわる学習）でさらに地域にかかわる学習を開発していく。（児童による地域安全マップの作成など） ・町の行事等には、次年度も積極的に協力して参加する。	・地域の行事に参加し、ふるさと教育をよくやっていると思う。 ・家庭科の授業は生活の一部なので、家事一式についてやる機会があるといいと思った。また、日本文化（こよみ）についても授業があるとよい。	A

重点目標と指標	記号	目標の達成状況・取組状況・結果分析	改善策（次年度への方途）	学校関係者評価委員会から	評価
(2) 家庭での読書習慣づくりやその他の生活習慣の改善を図ります	①釜戸地区教育週間の充実を図り、家庭での過ごし方について家庭や地域と一緒に考え、見直しを図ります。（年間3回の家庭教育週間を実施します。） ②PTAと連携し、ゲーム時間やPC使用時間、携帯電話等による情報モラル・ルールづくりについて一緒に考え、生活習慣のさらなる改善を図ります。同時に、家庭での読み聞かせや親子読書の習慣化を図ります。 ③「家庭学習のすすめ」の積極的・継続的な活用と釜戸中学校とも連携した学習の進め方の検討を行います。	B ○幼小中一貫教育推進協議会の場で、家庭教育週間について確認した上で実施できた。 ○家庭教育週間のような取組をもっとやってほしいという保護者の意見もあった。 ○PTAから児童の遊び方とその約束についてのアンケートをとるとともに、スマホやゲーム機の使い方の約束を家族で決めるよう働きかけることができた。 ○家庭読書の習慣化に向けて今年度もPTA母親委員会が掲示づくりをするなど協力してもらえたことが良かった。 ●家庭学習や家庭での読書については、家庭によって意識の差がある。今後も家庭学習の習慣化や家庭での読書の大切さについて保護者に理解してもらえるように働きかけをしていく必要がある。	・「家庭教育週間」の取組を継続する。PTAと連携を図り、その意義について各家庭に啓発していく。（母親委員会や研修部との連携） ・情報モラル指導の充実を図る。家庭教育週間に合わせて指導すると共に、保護者向けの研修会を企画する。（教育講演会や学級懇談会での啓発活動など） ・「家庭学習のすすめ」の活用にかかわる家庭への啓発活動を充実させる。（啓発するプリントの配布を各学期最低1回は行う。）	学校関係者評価委員会から	B
(3) 子どもたちの地域行事への参加や地域の諸活動への協力を大切にします	①夏祭りや文化祭など、大湫町や釜戸町の行事に子どもたちが参加できるよう協力します。 ②地域で様々な体験や活動ができるよう、子ども会との連携を大切にします。 ③地域の願いを理解し、地域の様々な活動を通して、地域の一員としての自覚を高め、地域を愛する子どもを育てます。	A ○地域行事に児童が参加するよう学校としても働きかけることができた。 ○子ども会の活動（盆踊り練習、ドッジボール大会、節分会など）の連絡や参加呼びかけなどを行うことができた。 ○ひなたぼっここの会では、お年寄りのために合唱を披露するという意味を理解して、児童が参加することができた。 ○夏祭りや文化祭では、中学生ボランティアをよく見て、地域に貢献することの意味を考えるよう児童に働きかけることができた。 ●今後も、地域の願いを理解し、課題を共有して、双方向の連携体制づくりに努めていく必要がある。	・中学校統合に備え、次年度も中学生ボランティアが夏祭りや文化祭でどのように活動しているのかを、高学年児童にしっかり見させるよう指導する。 ・平成30年度には、小学校6年生時点でボランティアリーダーの組織を立ち上げられるように公民館などと連携を図る。 ・公民館活動や子ども会活動などへの参加や協力を継続する。	学校関係者評価委員会から	A
<p>【学校関係者評価を受けての学校の改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭科や生活科、休み中の家庭でのお手伝いなど、より家庭で実践的に自分の役割を果たしていけるように課題を工夫する。</li> <li>・二十四節気など日本のこよみについて、朝の会や帰りの会などで学年の発達段階に応じて触れるようにしていく。</li> <li>・家庭教育週間の取組方法がマンネリ化しないように工夫する。家庭の事情に合わせて約束をつくり、実践し、見届けていただくことができるようにする。</li> </ul>					